

平成23年11月の解説（府県天気予報）

【11月の天候状況】

上旬は北・東日本では天気はおおむね数日の周期で変わりましたが、西日本と沖縄・奄美では、低気圧や南からの湿った空気の影響により、曇りや雨の日が多くなりました。暖かい空気に覆われたため全国的に気温が平年を上回る日が多く、上旬の平均気温は、11月上旬としては、全国的に平年より高くなりました。

中旬は北日本から西日本にかけて天気はおおむね数日の周期で変わりましたが、沖縄・奄美では湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。中旬の終わりには、南から非常に暖かく湿った空気が流れ込んだため全国的に気温が上がり、東・西日本太平洋側と沖縄・奄美を中心に大雨となった所があったほか、鹿児島県では竜巻による被害が発生しました。

下旬は西高東低の冬型の気圧配置となり全国的に気温が平年を下回る日もありますが、月末には暖かい空気に覆われ、全国的に気温は平年を大幅に上回りました。

月を通じて暖かい空気に覆われやすかったため、月平均気温は東・西日本、沖縄・奄美ではかなり高く、北日本で高くなりました。沖縄・奄美の月平均気温は、統計を開始した1946年以降最も高い値を更新しました（平年差：+1.5）。また、上・中旬を中心に低気圧や南からの湿った空気の影響を受けやすかった沖縄・奄美では、月降水量がかなり多く、月間日照時間はかなり少くなりました。一方、月の前半、高気圧に覆われて晴れた日が平年に比べて多かった北日本では、月降水量が北日本太平洋側でかなり少なく、月間日照時間が北日本日本海側でかなり多くなりました。

【11月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は84%で例年値^(注)と同じになり、明後日予報は例年値より1ポイント低い81%となりました。各地方の適中率では、明日予報は東北地方、関東甲信地方及び北陸地方で3~4ポイント低くなりましたが、その他の地方では例年値程度のところが多く、九州北部地方では6ポイント高くなりました。明後日予報は例年値より低い地方が多く、沖縄地方で7ポイント低くなりましたが、九州北部地方では9ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は例年値程度か例年値より小さく、全国平均は例年値より0.2 小さい1.5 でした。最低気温の予報誤差は全国的に例年値より小さく、中国地方では0.5 小さくなり、全国平均は例年値より0.2 小さい1.4 でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【1月の天気予報の利用にあたって】

1月は冬型の気圧配置となり、日本海側の地方で雪や雨が降り、太平洋側の地方では晴れることが多くなりますが、前線や低気圧が日本の南岸を通過する場合などには太平洋側の地方でも雨や雪が降ります。太平洋側の地方など雪が降ることが少ない地方では、数センチの積雪でも交通障害や路面が滑りやすくなるため歩行者への影響も多くなります。また、例年積雪の多い地方でも、大雪が続く場合には通常の雪への対策では間に合わないこともあります。雪への対策のため、天気予報、気象情報、大雪注意報および警報に留意して下さい。